

一人ひとりを生かす学級経営

徳田清美（目黒星美学園小学校）

対象 4年B組 39名（男子13名 女子26名）

研究について

昨年度、このクラスの担任になって決意したことがある。それは、39名の子ども達が1つの家族という思いでお互いを大切にしていければということである。そのために一人ひとりの個がみんなから生かされ、認められる学級経営を2年間かけて行っていきたいと思った。3年次は低学年から続いている日記を使って、それをクラスで紹介しながら友達についての理解を深めていった。また、学期に1回のクラス祭りを企画していく中で、1つの物を作り上げる喜びを感じさせつつ、互いの良さを認め合う機会を作っていた。

今年度は、昨年度の経験を生かしながら、一人ひとりが自分のことをより深く知り、また、周りにいる友達についても、良し悪しをそのまま受け入れお互いを大切にできる人間関係を目指していきたい。

そこで、作文を通して、自分を誰かに伝えたり、また、友達についての理解を深めたりできたらと思っている。読み合ったり、話し合ったりしながら、友達の思いや考えを分かち合うことと共に、そこから学んだことを日々の生活に活用していける力を育てていきたい。

作文指導の年間計画

以下の指導計画で作文の授業を学期に2回の割合で実施した。

①「書く意欲を育てる」 誰かに読んでもらいたい気持ちを育てる。

子ども達が書いた日記を読み聞かせながら、題材が多岐に渡っていること、小さな出来事でも友達と共感できること、内容から友達について知ることができることを知る。

作品を読み合うことは、人間理解を深め、他者への関わり方を学び、人と人の心を豊に結ぶ、その土台を培う働きをしているのである。（田近洵一 作文の授業から参照）

②「自己表現力を育てる」

○思ったこと・思っていることを書く。素直な気持ちを書く。思いや願いは、文章に表現することで明確になること、自己を表現することの喜びを感じさせたい。

○ある日、ある時の出来事を書く。自分の行動やその時の気持ちを振り返って書く力を育てることは、自分の気持ちを確かめたり、自己の内面を振り返って考える力をつけるためになる。

○人の気持ちや考え、会話を表現できることは、自分の考えを確かめたり、他者を受け入れ、友達を理解することに繋がっていく。

○相手の行動を捉える。他者に目を向けさせ、自他との区別をしたり相手を認め人間理解を進めていく助けとなる。

活動1 グループ日記

<方法・内容>

4人10班で行う。4人で日替わりに1ページを担当して回していく。テーマは自由。(但し、友だちを中傷する内容は禁止)子ども達のテーマとしては、学校内の話題(クラブ、係活動、登下校、授業)が多い。学期が進むと、家での様子(家庭内の出来事、習い事、旅行など)について書く子どもも増えてきた。これを毎日教師が読み、返事を書いて返却していく。

そして、内容的に子ども達に紹介したいものを発表し、その後その内容についての意見交換をする。可能な限り毎日実施していく。紹介する日記の観点は次のようなものである。

①表現力のあるのも・・・場面構成が分かりやすい。指示語や接続語が適切に使われている。

②内容に膨らみがあるのも・・・子ども同士が想いを共感できるもの。

<効果>

子ども達は作文というやや消極的になる傾向がある。「何を書いたらいいのか」「何枚書けばいいのか」など題材や書く量を気にする子が多い。しかし、グループ日記となると、形式が自由なので気楽に取り組める雰囲気があるようだ。また、日替わりで回すシステムなので、1人1人が責任を持って書いてくる。

また、内容や書き方も友達のを参考にして書ける良さがあり、自然に言い回しや語彙などを覚えていく傾向が見られた。

そして、何よりも子ども達同士の理解が深まってくるのが感じられた。「○○さんは、あんな事を頑張っている。」「この間、日記でこんな事を書いていたよ。私も同じことあったんだ。」子ども達は、しっかりと日記を読んでごく自然に友達のことを理解し、大切にしていって。中には、自分の悩みをみんなに伝え、どうしたらいいのかという内容もあった。少しずつではあるが、お互いを信頼し合えるようになっていくのを感じる。

活動2 作文

<方法>

学期に2回の割合で、作文を書く。授業で内容の確認や表現方法を分かち合う。その後、実際に書く。書くことで自分についてや行動を振り返ることができる。書いた後にはクラスでそれを読み合い、内容理解をする。その活動を通して、友達について様々なことを知っていく。以下に年間指導について示す。

<内容>

◎1学期：「4年生になって」「海浜学校」「クラブ」

◎2学期：「運動会」「音楽会」「こんな人になりたいな」

◎3学期：「半分成人式」「宗教劇」

※ここで実際の作文指導について紹介する。

作文活動のねらい

今回のねらいは、「自己表現力を育てる」という中の自分の気持ちを素直に表し、自分を表現する楽しさを味わうである。また、一言で終わってしまう思いを行動で表現することから、思いをより詳しく膨らませる様々な書き方があることを知ってほしい。そして、今後の表現活動に生かせる力を育てていきたい。

展開

	学 習 内 容	児 童 の 活 動	留 意 点
	①日記を紹介する。 「四Cの対戦ドッジで負けたこと」について	・ 気持ちを表す表現を見つける。 「悔しい」「嬉しい」「楽しい」など	男女一つずつ
	②一言の気持ちを行動描写に直す。 ③行動を書き表すことで日記が変わったことに気づく。 ④自分の書いた作文を読み直し、行動描写に書き直す。 ⑤紹介しあう。	・ 「悔しい」時にしたことを思い出す。 ○ボールを地面にたたきつけた。 ○顔を膨らませて下を向いた。 ○負け惜しみを言った。 ・ 「嬉しかった」時にしたことを思い出す。 ○抱き合った。 ○お互いに大笑いした。 ○男子の所に報告しに行った。 ・ 変化を考える。 ○内容が楽しくなった。 ○様子が分かりやすくなった。 ○書いた人の気持ちが伝わる。	男子 女子 書いてみたいなという気持ちにさせたい。
	⑥次回（一学期中）クラブ活動の作文を書くことを伝える。 クラブについて書いてある日記を紹介する。	・ 行動描写に書き表す。	自分の日記でなくても、友達的心情を予想して考えてみる。

授業後の反省

- ・ 導入部分で気持ちを見つけることは簡単であった。
- ・ 気持ちの部分を実動描写に置き換えることも楽しんでた。しかし、個人で単に行動描写を置き換えるよりもその時の気持ちをみんなで分かち合ってより深い行動描写を考えていく方がより良かった。
- ・ 海浜学校の作文を自分で行動描写に手直しするのは難しかったようである。時間が経ちすぎていて、その時の行動をなかなか思い出せず苦勞していた。
- ・ 一言で表しがちな気持ちをその時の行動に着目して書いていくと作文が楽しくなることは実感していたようだ。

評価について

作文を書いた後・・・

- ①子どもが書いた作文には、内容を受けてのコメントを書く。誤字脱字などの誤りがあった場合、ひどい時には直す。
- ②内容についての評価・・・指導したことが作文にみえるか。

思いのふくらみ・・・自分が所属するクラブのことで友達に伝えたいことがみえたか。
表現力・・・行動からその時の気持ちが伝わったか。

- ③子どもに返却するときに、声をかけて返す。

その後書いたクラブ活動についての作文（資料3）

最終のクラブが終わった後にクラブ作文を書いた。テーマは「自分のクラブについて伝えたいこと」とした。子どもたちは本当にクラブが大好きである。いつもなら何を書こうか迷う子が多いが、今回は伝えたいことがたくさんあって何を書いたらよいか迷っている子どもが多かった。

今回の作文を読んでみて、感じたことは次の点であった。

- ・一つの大きな出来事に焦点を絞ったものが多くなった。
- ・行動描写を大切にするという意識からか、細かく行動を思い返す児童が増えた。
- ・自分がクラブ活動を経験するごとに成長していく姿をつたえようとするものも多く見られた。
- ・全体的に行動描写に気をつけて作文を書こうとする姿は見えたが、表現力としては今後指導を続けていく必要がある。

このような形式で、学期に2回程度作文指導をすると共に作文を書く。勿論、合間に行事作文もいくつか書くが、行事の方は今までの指導を使って自由に書いていくことが多かった。

<効果>

この活動を通して、自分の行動や思いを振り返ることが上手になってきた。また、自分を取り巻く家族や友達存在に気づき、その人々の優しさ・励まし・温かさなどを感じ取っているようである。

「書くこと」に抵抗があった子ども達も、書き始めると自分についてや出来事で感じたことなどを何とか周りの友達に伝えようと一生懸命になってくる。何よりも作文を書き上げて、それを読み合うことが子ども達は大好きなのである。自分の文章を友達の前で読んでもらいたい気持ちがこちら側に伝わってくる。また、同時に友達の作文を聞くことも楽しいようである。

作文を書いた子どもの名前を語らずに読み始めると、文章の内容から「〇〇さんだ」「〇〇君だ」という声がどこからともなく聞こえてくる。この時の子ども達の顔には、笑顔があふれている。

考察

子ども達は理解し合おうとする機会を与えれば、与えるほど友達の良し悪しをそのまま吸収し、1人の人格として捉えていけることが分かった。運動会や音楽会など、協力して1つのものを作り上げていく活動を通して、気持ちを共感したり、反発しあったりして互いに理解を深めていく。その経験が作文を分かち合うことで更に深まっていく。

書くという作業は一見面倒なことのよう思われがちだが、子ども達は行動や気持ちを一旦頭の中に整理し、それを記す中で自分の成長を改めて感じていくのである。また、共感し次の活動への意欲にも繋がっていく。そして、字面が残ることも書くことのメリットであると思う。

2年間の日記活動と1年間の作文活動から、私自身も子どもの頑張りや成長そして、子ども達の関心などを素直に感じる事ができ、大変幸せだった。子ども達は、着実に物事に対して感じる心、視点を変えてみると今までと違った考えが生まれてくることなどを日記や作文から感じ取ったはずだ。

今後、子ども達は様々な面で自分の思いを誰かに伝える必要に迫られてくるであろう。そんな時この2年間の活動が少しでも生かされ、1人の存在として周りから認められ、また、相手を認めてあげられる人に育っていくことに期待したい。